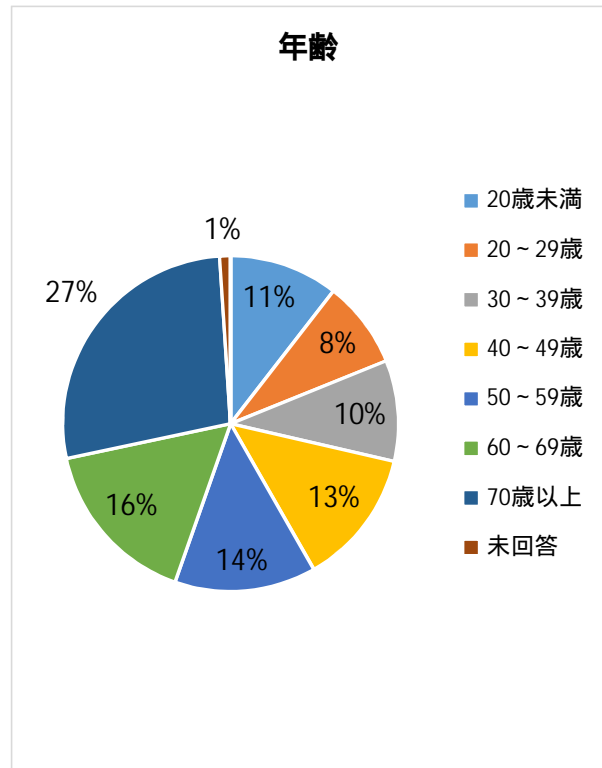
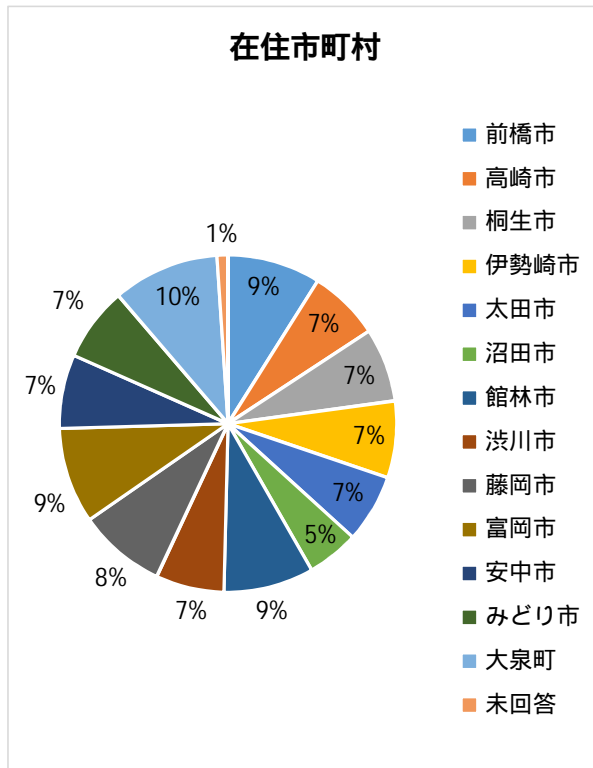


【別添2】

【主な調査結果】日本人向け調査「令和2年度多文化共生・共創推進アンケート」

回答者の属性（n=381，択一回答）



(1) 外国人県民との関わり

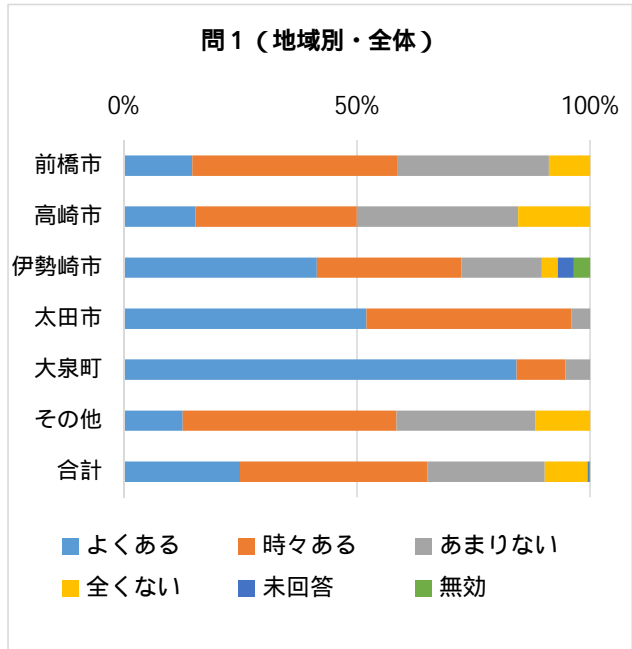
問1「あなたの住む地域では、外国人と顔を合わせることがありますか。(n=381, 択一回答)」に対する回答

・「よくある」と「時々ある」と回答する人を合わせると65.1%であり、地域で外国人と顔を合わせることがある回答者が多い。

・集住地域(伊勢崎市、太田市、大泉町)だけでは、「よくある」と「時々ある」と回答する人を合わせると88.0%。

・前回調査と同じ地域(外国人県民数の多い5市町(前橋市、高崎市、伊勢崎市、太田市、大泉町)のみ)では、「よくある」と「時々ある」と回答した人を合わせると75.0%であり、前回調査78.6%とほぼ同じ割合。

項目	回答数	構成比率
よくある	95	24.9%
時々ある	153	40.2%
あまりない	96	25.2%
全くない	35	9.2%
未回答	1	0.3%
無効	1	0.3%
	381	

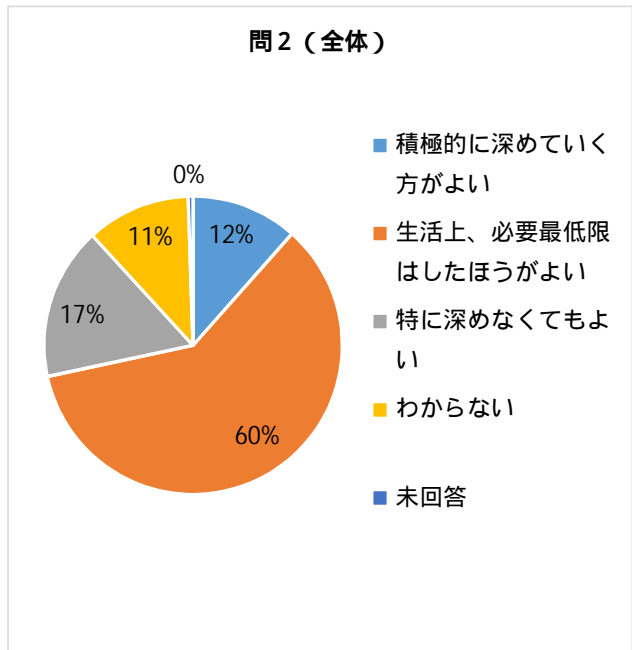


問2「外国人県民との関わりは深めるべきだと思いますか。(n=831, 択一回答)」に対する回答

・「生活上、必要最低限は外国人と関わりをもつほうがよい 60.1%」と回答する人が一番多い。

・前回調査と比べ「生活上、必要最低限は外国人と関わりをもつほうがよい 60.1% (前回: 50.3%)」の割合が更に増加。

項目	回答数	構成比率
積極的に深めていく方がよい	44	11.5%
生活上、必要最低限はしたほうがよい	229	60.1%
特に深めなくてもよい	63	16.5%
わからない	43	11.3%
未回答	2	0.5%
	381	

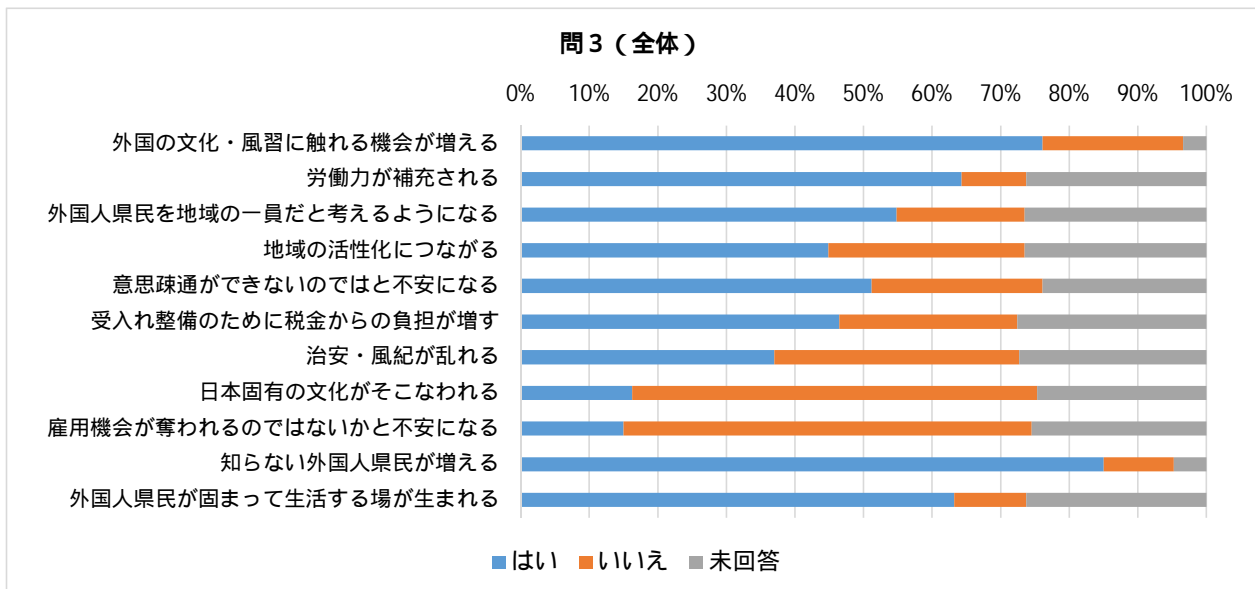


(2) 外国人県民が増えることに関する考え

問3「地域に外国人が増えると、次のような状況が生まれると思いますか。(個別に「はい」「いいえ」, 択一回答)」

・肯定的な意見 ~、否定的な意見 ~、その他 と整理すると、肯定的な意見については「はい」と回答する人が多い傾向。

項目	はい	いいえ	未回答	「はい」 の構成比率	
外国の文化・風習に触れる機会が増える	290	78	13	76.1%	肯定的な意見
労働力が補充される	245	36	100	64.3%	
外国人県民を地域の一員だと考えるようになる	209	71	101	54.9%	
地域の活性化につながる	171	109	101	44.9%	
意思疎通ができないのではと不安になる	195	95	91	51.2%	否定的な意見
受入れ整備のために税金からの負担が増す	177	99	105	46.5%	
治安・風紀が乱れる	141	136	104	37.0%	
日本固有の文化がそこなわれる	62	225	94	16.3%	
雇用機会が奪われるのではないかと不安になる	57	227	97	15.0%	その他
知らない外国人県民が増える	324	39	18	85.0%	
外国人県民が固まって生活する場が生まれる	241	40	100	63.3%	

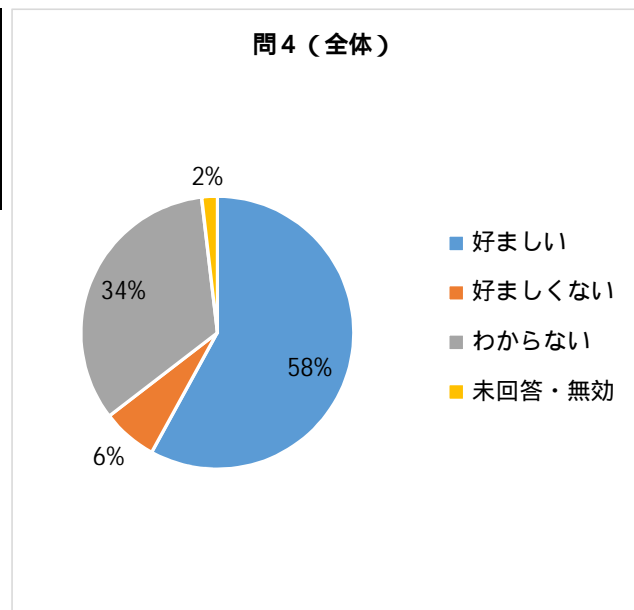


(3) 地域社会における外国人の活躍

問4「外国人が地域社会で活躍することについてどう思いますか。(n=381, 択一回答)」

- ・「好ましい 58.0% (前回:48.0%)」と回答する人が最も多く、かつ前回調査に比べ割合が増加。
- ・一方、「わからない 33.6%」とした回答者も多い。

項目	回答数	構成比率
好ましい	221	58.0%
好ましくない	25	6.6%
わからない	128	33.6%
未回答・無効	7	1.8%
	381	



(4) 取り組むべきと思う支援 新規項目

問5「外国人と日本人が共によりよく暮らせる地域づくりを進めるためには、どのようなことに取り組むべきと思いますか。(n=1,730, 複数回答)」

- ・「地域の生活ルールに関する支援 77.2%」と回答する人が最も多い。

項目	回答数	構成比率
地域の生活ルールに関する支援	294	17.0%
日本語の習得への支援	261	15.1%
日本の習慣や文化に関する支援	230	13.3%
災害時など、緊急時の連絡・支援	216	12.5%
多言語で対応できる相談窓口や相談員の設置	200	11.6%
就労・就職に関する支援	161	9.3%
地域の住民との交流や意見交換	129	7.5%
住居の手配・確保に関する支援	97	5.6%
その他	142	8.2%
	1,730	

